

レンタヤギについて

碓高原牧場では、除草効果による地域の環境保全への支援と、家畜を身近に感じてもらうため、平成14年度からレンタヤギ制度を開始し山羊の貸し出しを行っています。貸出期間は例年4月1日から11月30日まで、貸出料は1日1頭当たり11円です。

成山羊では1日当たり生草7.5kg程度を必要としますが、道ばたの雑草も好んで食べます。草が不足する場合には、少量の穀物（ふすま、トウモロコシなど）を与えることで人慣れした山羊に育てることができます。

山羊は小柄で人懐っこいため、取り扱いが容易で飼いやすく、狭く急峻な斜面の除草にも活用できる利点があります。

また、地域の小学校や高校では、動物とのふれあいを通じた情操及び学術教育の一環としても活用されています。

昨年度は府内8箇所にて13頭の山羊を貸し出しました。今後もできるだけ要望に応えられるよう積極的に取り組みますので、興味ある方は当場までお問い合わせください。

（碓高原牧場 山本）



元気に遊ぶレンタヤギ

乳用育成牛譲渡事業における繁殖管理について

当場では、春先に府内の酪農家から乳用子牛を受け入れ、放牧することで足腰のしっかりした牛に育てるとともに、和牛受精卵を移植して、秋に妊娠牛として農家へお返しする「乳用育成牛譲渡事業」を昭和54年度の開場時から毎年、実施しています。

今回は本事業における繁殖管理の取り組みについて紹介していきます。

当場では、事業開始当初においては初産分娩の負担軽減のため和牛精液による授精を行ってきました。また、昭和59年度から全国的な受精卵移植技術の研究が進み、分娩の負担軽減に加え、京都府産の和牛子牛増頭と受精卵移植普及の目的のため、本事業の乳用育成牛に和牛受精卵移植を導入しました。

近年では、譲渡先農家の後継牛確保の要望から乳用牛の性選別精液の利用割合も増えてきています。

これまでの繁殖成績としては、初回の受精卵移植受胎率が平均51.6%で、和牛受精卵を移植した受胎牛539頭を酪農家へ譲渡している状況です。

来年度から全農京都の哺育センターと連携した乳用育成牛が当牧場に預託されます。

これまでの繁殖管理で培った経験を生かし、常に新しい技術などを取り入れ一層お役に立てよう努めていきます。

（碓高原牧場 岡本）



放牧中の育成牛